

ぞうふくじ せきぞうかんのん

## 増福寺の石像観音

(石浜)

いしはま ぞうふくじ せきぞう かんぜおんぼさつ  
石浜の増福寺に石像の観世音菩薩がまつられ

ています。この石像観音には、次のような話がつた  
つた 伝えられています。

むかし、かみなりさま もうご どうじょうほうし う  
雷様の申し子の道場法師を生んだ  
ちようしろうふさい しそん だいたいしはま きたこうしんぼう す  
長四郎夫妻の子孫が、代々石浜の北庚申坊に住  
んでいました。その中の一人が、あるとき眼の  
びようき びようき  
病氣にかかってだんだんひどくなり、やがて目  
が見えなくなるばかりになりました。その人は、  
「いったい、なんの因果でこのような病氣にか  
かったんだらう。」

と、わが身の不幸をなげき悲しんでいました。

すると、ある晩のこと、夢の中に光り輝く

かんぜおんぼさつ あらわ  
観世音菩薩が現れ、

「われは、お前の祖先の道場法師立願になる

かんぜおんぼさつ いま やしきうら うめ こぼく  
観世音菩薩である。今、屋敷裏にある梅の古木

の根の下にとじこめられて難儀をしている。

われを救い出したら、お前の眼病を治してや

らう。」

と言って姿を消しました。

ゆめ さき ひと いえ ひと  
夢から覚めたその人が、家の人にたのんで、

裏の梅の木を調べてもらいますと、根っ子の



観音像が現れました。

「これこそ夢に現れた観音さまにちがいない。」

いちぶ 一部が盛り  
あがって、脂  
の出ている  
ところがあ  
りました。さ  
つそくそこ  
を切ってみ  
ますと、中  
から石の



▲ 石像観世音菩薩

と、その人は、大喜びに喜んで、観音像を洗  
い清め、大事にまつってお祈りしました。その  
うちに、だんだん眼の病気がよくなってきて、  
やがて、すっかり治ってしまいました。  
それが、いま、増福寺に伝わる石像観世音菩  
薩だということです。